

1. 単元名(主題) 「検証結果を分析して結論を導こう」

～プレ探究における結果の整理、考察・結論の導出、今後の展望の検討～

2. 本時の主題の概要および設定理由

これまでの活動において、生徒はグループまたは個人でアンケート調査、インタビュー調査、文献調査などの仮説検証活動を行ってきた。

本時から次時にかけての2時間(第13回・第14回)は、プレ探究の集大成として「プレ探究計画書兼報告書」を完成させる重要なプロセスである。生徒の検証活動の進捗にはグループや手法によって差があるため、今年度は同一の主題を2回に分割して継続実施することとした。これにより、生徒がそれぞれの進捗状況に合わせて検証結果の分析や考察を深められるよう、十分な時間を確保する。

また、本時と次時の2回にわたり、教員は「事実(研究結果)」と「解釈(考察・結論)」の書き分け、および結果の成否に応じた「今後の展望」の描き方という2つの主要な指導事項を繰り返し伝達する。この反復的な指導と、生徒個々の進捗に応じた丁寧な机間巡視による個別指導を行うことで、論理的思考力の育成を図り、生徒全員が自発的かつ納得のいく形で探究を総括し、後期から始まる本格的な「専門的課題研究」へと円滑に接続させることを目指す。

3. 本時の目標

- 1) **事実と解釈の区別:** 調査によって得られた具体的な客観的事実(結果)と、そこから導き出される自らの分析・解釈(考察・結論)を論理的に区別して記述できる。
- 2) **結果を踏まえた自己省察:** 仮説に対する検証結果の成否を分析し、それに基づいた適切な「今後の展望」(高次のリサーチクエスションの導出、または仮説・検証方法の再考)を考案できる。
- 3) **継続的な探究態度の育成:** 後期「専門的課題研究」への移行を見据え、自身の関心に応じたラボコースまたはゼミコースの選択に必要な情報(研究室訪問、専門的課題研究予備調査等の結果を踏まえた検討など)を主体的に整理し、計画的に行動できる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第13回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『前期プレ探究ノート』(Google Classroomにて配信済み)
『専門的課題研究 希望研究テーマシート』(ラボコース希望に配布)
- 共同編集用ファイル: 『プレ研究計画書兼報告書』(共有ドライブに原本テンプレート格納)
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『前期プレ探究チーム決めスプレッドシート』(各教室用シート)
『SS I 分野&担当教員一覧』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認。 - 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 - 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第13回授業スライド(PDF版)』を表示する。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
5分	(2) 本時のゴールとスケジュールを確認する。 本時のゴールである「検証結果の整理と結論の導出」について理解する。	『SS I 総探-第13回スライド』を提示し、以下の最重要指導事項を説明する。本指導は、生徒の理解度を深めるため次の授業でも同様に繰り返し説明することを念頭に置く。 「結果」と「考察・結論」の明確な書き分け 「結果」: 調査で得られた客観的事実のみを整理・要約して記述する。自己の解釈は含まない。 「考察・結論」: 整理した事実をもとに、自分たちがどう解釈し、何が判明したか、何が不明のまま残ったのかを自らの分析・考えとして記述する。 「今後の展望」の書き方 - 検証により一定の結論が得られた場合: 次のステップとなる新たなサーチクエスションの設定を促す。 - 結論が得られなかった場合: 仮説の妥当性、検証方法の適切性を振り返り、再設定や改善の方針を記述させる。 最終成果物である『プレ研究計画書兼報告書』の完成期限(保存先への完了期日)を改めてアナウンスする。 各自の進捗(結果がすでに出ているか、現在分析中か)に合わせて本時の活動を進めるよう指導する。
5分	(3) 後期に向けた「専門的課題研究」のガイダンス 後期のコース選択(ラボコース・ゼミコース)に関するスケジュールと、研究室訪問の留意点について確認する。	『SS I 総探-第13回スライド』を使用し、以下の手続きおよび留意点を指導する(この内容も次時にかけて繰り返し生徒に周知し、期日の厳守と主体的な行動を促す)。 - ラボコース(理科4分野)を希望する生徒は必ず選択すること、および指定の期日までに研究室訪問(必須)を行う必要があることを改めて確認する。 - 試験最終日に実施される「理科4分野課題研究集団相談会」への出席の必要性を説明する(数学・情報ラボ、およびゼミコース希望者は訪問・相談会への出席は不要)。 - 次回授業(第14回)にて「専門的課題研究分野本調査」が配信される旨を予告し、各自で希望テーマや希望コースを熟考しておくよう指導する。 - 本時間内の研究室訪問は生徒1人あたり最長20分までとし、希望テーマシートを持参して積極的に質問・記録を行うよう指導する。共同研究を予定している場合は、複数名でまとまって訪問するよう促す。
35分	(4) グループワークおよび研究室訪問【プレ探究ワーク】 各チームの検証手法に応じた作業を進める。 【希望者の研究室訪問】 ラボコース希望者や個別相談を要する生徒	- 各自の進捗に大きなばらつきがあることを想定し、教員は教室を巡回して丁寧な個別指導を行う。 - 特に「結果」の欄に個人の解釈が混ざっていないか、また「考察・結論」において客観的な事実に基づいた論理的な推論ができているかについて、生徒に問いかけながら指導を繰り返す。

	は、『希望研究テーマシート』を持参し、該当分野の教員が待機する教室へ訪問して指導・アドバイスを受ける。	● 進捗が早く既に記述を終えている生徒には、結論から導かれる「今後の展望」の論理性に矛盾がないか見直しを促す。 ● 研究室訪問を希望する生徒に対しては、他教室や準備室への移動を適切に管理・把握する。
3分	(5) 本時の振り返りと次回の予告 次回の活動(研究報告書「(7) 今後の展望」の作成およびプレ探究ノート全体の完成)の見通しを立てる。	● 次回(第14回)が前期最終回の授業(プレ探究の最終回)となることを説明する。 ● 次回授業時に「専門的課題研究分野本調査」を配信することを明確に伝え、ラボコース希望者はそれまでに必ず研究室訪問を完了させるよう再度促す。